

ぼくたちの五段活用

生きていくときにね、どんなに妥協しても、ここだけは絶対に譲れない、譲ったら自分が自分でなくなっちゃう、っていうのがあるはずだよ。それさえしっかり守ってれば、きつとうまくいく。

「あー、課題提出、だっる。ネットに転がってる記事でもコピペっておくかな」

立ち寄ったコンビニの、おでんの香り。「ちょっと待って、今の『コピペって』、それ、なに何活用の動詞か分かってる？」

また始まった。

「話すときにいちいち何活用かなんて考えねえだろ普通」

「それはシンキチくんだけだと思うよ」

いや、ぜってえそんなことはない。

「『コピペって』みたいに『っ』が入ってる時点で、五段活用だって分かるんだよ」

昔から、しっかり者キャラ。いつもおだやかだけでも、ほんとうにダメなことをしたときにはダメだと叱ってくれる。手に取るジャムパンと、熱い缶コーヒー。

「終止形は『コピペる』でしょ。この形のままだと、五段活用なのか一段活用なのか、最終的には確定できないんだよ。ちょっと活用させてみて」

「コピペらない、コピペります、コピペる、

コピペるとき、コピペれば、コピペれ、コピペろう」

青いベンチ。甘酸っぱいジャムと、耳に届く声。頬をなでる風。

「ほらね、『ら・り・る・れ・ろ』って、五段に活用してる、だからラ行五段活用。で、『～て』を付けると『コピペって』みたいに『っ』が入るよね」

どうでもいい会話、だけど、このまま、ずっと続いてくれたら。

「この『っ』が重要な。たとえば、同じ[きる]でも、『着ない、着ます、…』の一段活用『着る』は『着て』になるでしょ。けども、『切らない、切ります、…』の五段活用『切る』は『切て』じゃなくて『切って』になるよね。だから、『コピペて』じゃなくて『コピペって』になるこの動詞は、五段活用なんだよ」

やっぱり、なに言ってるんだかさっぱり分かんないや。けど、最高に心地の良い外国語の歌を聴いてるみたい。

「わたしは、こんな日本語が大好きでしかたがないの。これだけは譲れない。シンキチくんも、自分にとって大切なものを探すんだよ。生きていくときにね、…」

ぼくにとって、大切なものはさ。

作：塩田雄大(しおだ たけひろ)